

広報

わが家



陶芸家・杉井四一さん（末野）は、毎年、十二支の焼き物を作っておられます。戌の焼き物は、今年で3回目だとか。これからも伝統的な須恵野焼を作り続けてほしいものです。

1

2006

No. 9



新



春



対



談



ラムサール条約に登録された「三方五湖」 私たちには何ができるのか・・・

松村勇さん、八代恵里さん、渡智美さん、池上成志さん、田辺一彦さん、千田町長、井口議長が「子どもたちに美しい自然をのこすまちづくり」について対談しました。なお、司会は杉谷教育長にお願いしました。

町長 新年あけましておめでとうございます。

11月に三方五湖が、国際的に重要な湿地を保全する「ラムサール条約」に登録されました。

これからどういう形で、登録された三方五湖を守っていくかは、一番の課題であり、大変なことだと実感しています。

議長 新年あけましておめでとうございます。

私は、日本中へ旅行に行っていますが、梅丈岳の上からや、三方石観世音の展望台から見た三方五湖が「日本一の

湖」だと思っています。

その三方五湖が、ラムサール条約に登録されたということ、守っていくのが私たち町民の責任であり、並大抵のことではないと思います。この機会に多くの方に興味を持ってもらい、広く知っていただくのが、私たちの仕事だと思っています。

自然がいっぱいですね

司会 田辺さんは、湖や海などの自然を活用した活動をしていらっしゃるようですが。

田辺 私は旅館を運営していますが、食べるだけ、見るだけの観光だけでなく、思われた自然を活用して、子どもたちやお客さんに自然を体験していただくとう、「自然に大の字あそびーや」を始めました。そこから、自然に対して魅力を感じていただけるかなという思いでやっています。

※「自然に大の字あそびーや」…子どもはもちろん、大人にも、自然が与えてくれる感動を知ってもらいたいと、田辺さんが設立。自然と触れ合う体験などをさせてくれる。

司会 自然が好きだということでは、池上さんもそうですね。

池上 私は昔から三方五湖が好きでした。何が好きだったかという、あまり開発されていないからです。湖周辺は明かりも少なく、湖面に映る満月を見て、すごく感動したことがあります。また今の季節、コイの刺身もおいしいですね。

松村 私は三万湖の近くに住んでいます。昔から誇りに思っている湖ですし、その湖の美しさが万葉集でも詠まれています。

最近、ブラックバスなどの外来魚が現れ、湖の生態系が崩れないか心配しています。

司会 ブラックバスの話ができましたけど、渡さんはその関係で頑張っておられますが。

渡 漁協の皆さんや区長さん、町や県の人たちと、外来魚駆除に取り組みました。今まで関係者がみんなで取り組むということはありませんでしたが、鳥浜漁協さんたちの声かけによって実現しました。

司会 大都會から若狭町へ来て農業をやってみようと思った八代さんは、町へ来たとき

にどのように感じましたか。

八代 海や山や田んぼなど、自然のすべてがあって、いいなあと思った反面、気になったのが松枯れした山です。あれはなんだろう、木を切ったのだろうかと思いました。

農楽舎のイベントに来られるお客さまも、なぜ山はあんなことになっているのかと感じるみたいです。

司会 あの枯れた松は、どうにもならないのですか、樹木医の池上さん。

池上 枯れている直接の原因は、「マツノザイセンチュウ病」です。しかし、それ以前に松が枯れる要因は、他の樹生が強くなると負けてしまうからなんです。養分がたまって、富栄養化してくると、共生するマツタケなどの菌根菌が弱まり、松は枯れます。松は山林のバイオマス利用を行い、光が当たれば、よみがえると思います。

※「マツノザイセンチュウ」…長さ0.1～0.7ミリの線虫。この線虫が松に取り付くと、松は急速に弱まって枯れてしまう。

山とつながる川や湖

渡 ここ最近、湖周辺で増水による被害がありましたね。出身地の勝山市では、あんな体験はなかったので、初めてで怖いなと思いました。

池上 大雨が降ったときに流入量が一気に多くなる原因は、人工林の荒廃が少なからず影響していると思います。ですから、間伐をして樹生をよみがえらせるということが、三方五湖にとって一番重要な課題なのではと思います。

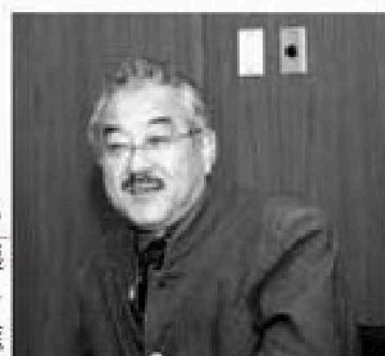
松村 川の上流は[※]三面張り[※]で、土砂とともに一気に水が流れてきます。川は濁るし、水の勢いで大きな石ころも流れてきます。決壊すると工事が始まり、また濁る…その繰り返しです。

魚のためからいうと、川底を掘り返されると、せっかく慣れた魚の住まいが崩れてしまいます。また、泥水をかぶると、産卵した卵も死んでしまうので、健康な山にしてほしいです。

※「三面張り」…河川を管理しやすいように、川底と堤防の3面をコンクリートで囲む工法。



まつむら いさむ
松村 勇さん（鳥浜）
鳥浜漁業協同組合代表理事組合長



いけがみ なるし
池上 成志さん（三田）
若狭森林組合森林管理課長
きのこアドバイザー
樹木医

※「きのこアドバイザー」…主に野生キノコの普及やキノコ栽培の指導を行う専門家。
※「樹木医」…樹木の診断や治療をし、天然記念物などの樹木を保護する専門家。

池上 きれいに間伐された林は、見た目にも見通しがよくすごく気持ちがいいです。間伐は全国的に遅れています。だから、若狭町がいち早く里山整備をすれば、日本一の整備をやっているということで、ラムサール条約にプラスした知名度につながると思います。

町長 やはり山から手入れをしなければなりません。しかし山を手入れするというのは、湖よりもさらに広いので、なかなか大変です。ただ、「日本一の里山の町 若狭町」、そういう風に見えるようになったときは、三方五湖も素晴らしい湖によみがえっているだろうと思います。

八代 田んぼをやっていて、海や山にすべてつながっているんだなと感じました。田んぼは田んぼだけでなく、そこから水などを通じて、海や山や川につながり、お互いに影響しあっているのです。そのすべてを通じた将来を考えていかなければなと思いました。

町長 山が保全されていれば、流れてくる水もきれいになります。田んぼにしても、おいしい

いお米が取れます。最終的には海に流れるわけで、海の魚が磯に寄り付くというのも、そこに魅力があります。山、川、湖、海のどこかがおかしくなると、自然の循環がうまくいかないのではないのでしょうか。

「共生」と「循環」

田辺 「守る」というよりも、自然と一緒に生きるという「共生」と「循環」の仕組みをどのように作っていくか、自然と一緒に生きていく人間を、どれだけ多く作っていけるかということだと思います。その結果として、自然が良くなるということに結びつくのではないのでしょうか。

ラムサール条約の精神でもある「湿地をうまく活用すること、生活の中にどれだけ溶け込ませていくか、意識せず、どれだけきれいにできるか」ということが大事なのではないかと思っています。

渡 「共生」とは「保全」と「利用」を合わせて「共生」というのだと思います。

昔は舟も木でできていたし、漁師さんは山を見て現在位置

とか、漁場を確認したから、「山は神様だ」と書いてある本も見ました。

また、捕れた魚を入れる箱は木箱だったけど、今は発泡スチロールになりました。その発泡スチロールのかけらを、水鳥が食べて死んでしまうとか、そういうつながりがパラバラになっています。昔は、利用することが保全につながっているようなことばかりだったように思います。

便利さを求め過ぎたのか

田辺 昔の生活と違うのは、便利さを求めたということだと思います。発泡スチロールにしても、軽くて持ち運びに便利。便利さを求めた結果、自然とのバランスがとれなくなったように思います。根本的な人間の価値観を変えてしまわないと、いけないのかなとも思います。

町長 そう思うと、昔の人の知恵がすごいですね。下水道ができるまでは、家に必ず「ためつぼ」がありました。下水が、一度そのためつぼに入るようになっていました。

ためつぼで、汚水を沈殿さ



せんだ まさひろ
千田 千代和 町長（若狭）



たなべ かずひろ
田辺 一彦さん（海山）
有限会社湖上館代表取締役

せて、上澄みだけが川へ流れる状況を作っていました。沈殿したものは、肥料にもなりました。そういうことを昔の人は続けていました。結果的に、水や湖を汚してはいけないということに、つながっていたのではないのでしょうか。

松村 そのためつぼも、上水道ができてから大量に水を使うため、排水が追いつかないようになってきたんですね。川や井戸からバケツに水をくんできて使っていた程度だったから機能していたのです。

町長 そうですね。今みたいに水が使い放題ではありませんでした。それと、昔は、川で小便をすると大事なところが腐ると言われました。「川や湖に不浄なものを流してはいけない」という子どもへの教育をしていました。

司会 米のとぎ汁でも、一番濃いところは畑へ流すようにしていましたね。

渡 私は、環境に優しい洗剤を使用しています。ちょっと溶けにくいですが、柔軟剤を使わなくても柔らかかったです。

町長 下水道が整備されるまでは、排水を川に直接流していたので、「合成洗剤を流してはいけない」という意識が身についたのでしょうか。今では「どうせ下水処理施設で処理してくれるのだから大丈夫」という意識もあるのではないのでしょうか。

渡 処理されないのですか？

町長 合成洗剤は、分解されないんです。その辺りの教育からしなければなりませんね。

ここ数十年で湖が汚れた

議長 私の小さいころは、湖の護岸整備もしていなかったし、三方湖で泳いだ経験もあります。その三方湖がこれだけ汚れたということは、ここ30年から40年の間に汚れたということですよ。

これから先、町民の方々が湖に対してもっと関心を持ってもらって、後世に残して欲しいなと思います。

司会 一度汚すと、浄化にその倍以上の努力をする時間がかかると思われれます。しかし、諦めてはいけないと思います。

努力する人が、少しづつ輪を広げていくことが大事なのではないのでしょうか。

議長 何年か前に、婦人会などが廃食油を使ったせっけんに取り組み、湖をきれいにしようという活動が盛り上がりました。今でもやっています。今でもやっていますが、こういう取り組みを積極的にしたことによって、みんなが水質浄化への理解を深めていたのではないかと思います。

感謝の気持ちを

田辺 最終的には、「湖は大事」なんだという心ではなくて、そこに住む人間としては、「ありがとう」という感謝の気持ちが芽生えてこないか、本物にはならないのではないのでしょうか。その気持ちが、自然と水をきれいにしていくのではないかと思います。

司会 そうですね。「大事にしましょう」と唱えていただんでは、義務を課せられているみたいな感じですね。

池上 ヒシやヨシなどの水生植物も、ある程度は水質を浄化してくれると思います。だ



渡 智美さん（鳥浜）
福井県海浜自然センター（食見）職員
ハスプロジェクト推進協議会会員
勝山市出身



井口 一男 町議会議員（田井野）

※「ハスプロジェクト推進協議会」…三方五湖に再び生物のにぎわいを取り戻すため、自然環境保全活動などを行っている団体。

から、コンクリートの護岸だけでは作ってほしくないという願いはあります。

司会 昔から、「大雨のあとは、フナがたくさん湖から田んぼに上がってくる」と三方の人が言っていました。

松村 そうです。昔は、フナが湖から田んぼへあがって産卵をしました。今はそういう場所が少なくてかわいそうです。

議長 護岸整備をしてからあまり見かけなくなりました。

松村 コンクリートの護岸整備で、河川の管理はしやすくなりましたが、自然は何らかの形で破壊されてきているのは事実です。悪くいえば、すべて人間が破壊してきたようなもの。

これからは、人と動植物とのつながりも優しい気持ちで接すれば、自然環境が良くなって、昔の自然に返っていきけるのではないかなと思います。

渡 海も、コンクリート護岸が続いています。海浜自然センターがある食見海岸は、今

よりとても水が澄んでいたと聞きました。また、若狭湾はリアス式海岸で美しいと言われますが、そのリアス式海岸も削られているのが気になります。やはり、森から湖、海を含めて考えていきたいなと思っています。

池上 私も海の護岸が気になっています。本来松林が、潮害や砂の流出などを防いでいました。もし可能であれば、現在機能している松林があれば、なんとか守ってほしいし、増やせるものなら増やして欲しいです。

子どもたちにも伝えたい

町長 学校の子子どもたちに、毎年、山に木を植えてもらうという活動はどうかと思っています。1000人の子子どもが1本ずつ木を植えたら、1000本植わる。そういう活動で、子どもたちが動き出すと、大人たちも動いてくれると思います。

八代 そういうのは、植えたら終わりではなくて、ずっと見守り続けていってほしいです。小学校から中学校、大人になるまで。

司会 後々まで、これが私が植えた木なんだ、これが僕たちが育てた木なんだ、という風に残るからいいですね。

池上 今の子どもたちに、山の体験をさせるのもいいですね。しかし、どこかの山に行っても手入れしてなくて、山に入れません。子どもたちにも入れる場所をどこかに作れないかなと思います。

若狭町のいいところは、区長さんを通じた「集落自治」がしっかりしていることです。山道は、集落のみなさんの力で、昔のように刈り払いをして通りやすいようにしていただくなど、子どもたちが山に入れるような環境にしてあげてほしいと思います。

田辺 10年後、どういう状況になっているのかってことを頭で描ける人がどれだけいるのだろうかと、というのが不安です。それを持って大人が、目を輝かせながら子どもに話すことが、子どもにとってはすごく影響を与えるのだと思います。そのためだったら洗剤はごちらを使おうよ、という話になるのだと思います。



すぎたに まさみ
杉谷 正美 教育長（脇袋）



やしろ あり
八代 恵里さん（末野）
かみなが農楽舎の研修生
大阪市出身

※「かみなが農楽舎の研修生」…農楽舎では、就農を目指す研修生を毎年募集し、農業全般の指導を行っている。

こちらが良くて、こちらが悪いとかではなくて、理想的な夢のためには、こちらなんだという道筋を示してあげるのが、大人の役割ではないのでしょうか。

八代 都会に足りないものは、「自然」に触れあえる子どもたちが少ないということです。川に入ったことすらない、山がどのようなものか分からない、そんな子どもたちに、いろんな自然に触れあえる場所を作りたいと思い、私は農業という道を選び、若狭町へ来ました。なので、そういう風な私の夢をかなえられるような自然豊かな若狭であってほしいなと思います。

便利さよりも「自然」っていうことをひとりでも気づける子どもになってほしいなと思います。まず、私は子どもたちにいろいろ伝えていきたいです。

松村 自分の孫に、魚や漁のことを教えてあげると、大変喜んですぐに覚えてくれます。だから、たくさん子どもたちに湖の水質を教えたり、たたき網漁を見せてあげたり、体験させたり、フナ汁などの味を教えてあげたいです。

渡 子どもたちとは、一緒に活動することが多いのですが、子どもは、自然に対してすごく関心を持ってくれます。

そして、これからは、森や海など循環する中の一部として、大人の漁師さんたちとも、一緒に活動したいなと思っています。

環境の町宣言

議長 関西一きれいな川だと言われている北川と、三方五湖を組み合わせて、水をきれいにするという考えで広めていけば、若狭町全体が関心を持ってくれるのではないかなと思います。

司会 熊川宿の人たちは、「観光客をどんどん集めよう！」そんな気はないんですね。昔のまま住んでいる、そこを見に来てくれればいい。それで観光客の心が安らぐのなら、それに越したことはないというやり方です。

三方五湖も、あまり売り出すということではなくて、大事にして、それが最終的に勝

利をするのかなと思います。

町長 今、皆さんがあっしやられたことは、実行しなければなりません。自然というのは、うそをついてくれません。手を加えたら加えただけのことが出てきます。

山から海、川まですべてを含めて、「環境の町宣言」をさせてもらいたいなと思います。宣言することによって、町民の皆さんが環境に対して目を向けてくれたらと思います。

三方五湖や川をなぜ汚してはいけないのか、山をどう使するかということについて、関心を持ってもらうこと自体が、大事なことだと思います。皆さんのご意見をお聞きしながら、取り組めるものから取り組んでいきたいと思っています。

司会 山、川、湖、海。ちょうど若狭町は自然がすべてそろいました。あとは、環境の町宣言のいい文案が出てきて、いい宣言文ができて、町内外に発信できればいいですね。

一同 ありがとうございます。



まちの話題

願いよ届け

特定失踪者の真相究明を願っての祈念植樹(11/17)

嶺南地区特定失踪者の真相究明を願う会(会長・千田千代和町長)が、世久見漁港前公園で祈念植樹を行いました。植樹には、北朝鮮に拉致された可能性のある特定失踪者・宮内和也さん(三方)の両親ら約40人が参加し、アスナロの木を植えました。旧三方町職員だった宮内さんは、平成9年に仕事で世久見海岸へ出かけたまま行方が分からなくなり、特定失踪者のリストに掲載されています。



植樹を行う宮内和也さんの両親



↑観客を魅了した宮本安子さんらのマリimba演奏



体験コーナーでは、観客も一緒に演奏→

感動して 涙が出た

ふれあいコンサート(11/22)

若狭町公民館で、「宮本安子マリimba・パークッションコンサート」が開かれました。世界的に活躍する宮本さんら3人の演奏に、約250人が魅了されました。観客からは、「目で見て楽しめて、耳で聞いて感動し、肌から体に染み込むような美しい波動を感じた。」「ドヴォルザーク作曲『アヴェ・マリア』の演奏は、涙が出た。」などの感想が聞かれ、マリimbaから放たれる温かい音色に感動したようでした。

森から海・湖へ

環境フォーラム(11/27)

イギリス出身で、長野県在住の小説家・C. W. ニコル氏のトークショーが、ショッピングセンター・レピアで開催されました。ニコル氏は、「森と湖はつながっている。湖の水をきれいにするためには、森を元気にしなければならない」と、自らの森林保護活動を変えながら話されました。また、自然保護に携わっている住民らとのパネルディスカッションも行われ、身近な環境問題について話し合いました。



森は大切と語るC. W. ニコル氏

※広報紙に「あなた」が写っていましたら役場企画情報課にご連絡ください。写真を差し上げます。(TEL0770-45-9110)

登録湿地に伝わる漁法

たたき網漁始まる(11/27)



湖面をたたいて、魚を網に追い込む「たたき網漁」

ラムサール条約に登録された三方五湖の一つ、「三方湖」で、古くから伝わる漁法「たたき網漁」が始まりました。たたき網漁は、竹ざおで湖面をたたいて、コイやフナなどを網へ追い込んで捕獲する漁法で、魚の動きがにぶくなる冬季期間に毎年行われています。3月まで続けられる予定で、「バッシューン」という湖面をたたく音が、冬の湖畔に響き渡ります。



この日とれた大物

金メダリストに学ぶ

やさしいまちづくり講演会(12/5)

アテネ・パラリンピックの金メダリスト(陸上競技400メートル、5000メートル、マラソンの3種目で金メダル)で、福井市職員の高田稔浩さんの講演会が、上中中学校で開かれました。高田さんは、「障害を持った自分の体は嫌いだったが、自分なりに目標を決めて頑張ってきた。そして、目標に向けて努力する自分が好きになった。」と、これまでの人生を語り、「努力しても報われないときもある。しかし、努力した過程が大切。」と話されました。



金メダルを取るまでの人生などを語る高田さん

御食国のふるさと若狭町

第1回縄文学講座・若狭町歴史シンポジウム(12/11)

「古墳」や「熊川宿」といった若狭町の歴史遺産を広く知ってもらおうと、「歴史シンポジウム」が若狭町公民館で開催されました。御食国のふるさと若狭町の古墳や、熊川宿の歴史的価値などを解説した4つの講演が行われ、町内外から約150人が集まりました。

また、熊川宿伝統芸能保存会による「てっせん踊り」や、縄文博物館友の会DOKIDOKI会のメンバーらが用意した古代米おにぎり、イノシシ肉のみそ汁なども好評でした。



町の歴史を話し合ったパネルディスカッション

三生野・みしよの 人口119人 世帯数31世帯

霊峰「鏡山」のみもとにある三生野区は、鳥羽地区東側の最北部に位置します。区民は温和で何事にもまとまりがよく、一致団結して、集落発展と生きがいある生活環境づくりに努めています。また、鏡山登山道も整備されています。



集落風景

鏡山山頂の反射板

※色成写真のため多少ずれていますがご了承ください。

麻生野・あその

人口146人

世帯数41世帯

このたび、老朽化した薬師堂を建て替え、平成17年10月9日に第82回法要大祭を行いました。この薬師堂には、県指定文化財の「薬師如来立像」と「聖観世音菩薩立像」が安置されており、区民のよりどころとして、先祖から受け継がれています。



約150年ぶりに建て替えた薬師堂



有田・ありた

人口140人

世帯数47世帯

見上げると三十三間山を望み、前には鳥羽川とJR小浜線があり、山むとごころに抱かれた静かな集落です。毎年、正月に行われる「綱打ち神事」は、伝承行事とされています。また、集落内にある「若狭有田駅」は、昭和39年に開設されました。



自然に囲まれた静かな集落。集落内には、「若狭有田駅」がある。

中野木・なかのぎ

人口54人

世帯数14世帯

野木山のみもとにある集落で、一言神社や野木川を中心に発展してきました。特に、一言神社は、県内外からも多くの参拝者があります。一言神社は、その名のとおり「一言」だけお願いすれば、願いが叶うという言い伝えがあります。

一言神社の本殿



一言神社の鳥居

新しいまちを知ろう

※集落からいただ作成しています。
成17年12月1日

若狭町全図



館川・たちかわ

人口 189 人

世帯数 56 世帯

館川区は、造成 16 年目の集落です。毎月 1 回区民全員で、集落内清掃を行っています。秋にはその日を利用して花を植え、藤棚も作りました。春には藤棚の花が咲くようになり、区民の憩いの場所となっています。



区民で作った藤棚

館川公民館



5月3日に行われた佐古祭り

佐古・さこ

人口 158 人

世帯数 30 世帯

佐古祭りの日を、連休中の5月3日に変更して、里帰りの親子も参加できるようにしたり、中年会の寄付で、みこしを新しくしたりと、村おこしに努めています。また、お墓のない集落として、隣の田各区とともに全国的に有名です。

集落・自治会を紹介

南前川・みなみまえがわ

人口 340 人

世帯数 07 世帯

三方地区の中心に位置し、人情の豊かな団結力のある集落です。毎年お盆には「ふれあい籠灯かごとう」や「松明行列しょうめいぎょ」が行われ、帰省者との交流をしています。また、陸上やボート競技などで日本を代表するスポーツ選手が多く出ています。



区出身のマラソン選手
大高姉妹

お盆に行う「籠灯」と「松明行列」



子どもみこしの様子

上吉田・かみよしだ

人口 158 人

世帯数 43 世帯

上吉田区は、小浜、敦賀方面や滋賀県への交通の便がよい集落で、買い物や保育所、小学校なども近く、生活環境の恵まれた地域です。近年、子どもたちが多く、子ども会活動も活発に行われています。

いた原稿をもとに
人口・世帯数は平
現在のものです。

健康カレンダー 1月

健康課(パレア若狭)(TEL 0770-62-2503)
三方保健センター (TEL 0770-45-1563)

子どもカレンダー

※予防接種と各種教室は、どちらの会場でも受けられますのでご相談ください。

実施日	行事名	受付時間
12日(木)	げんキッズ活動日(※①)	10:00～
19日(木)	げんキッズ活動日(※①)	10:00～
25日(水)	4か月児健診	13:00～13:30
	10か月児健診(離乳食教室)	13:30～14:00
27日(金)	7か月育児教室	9:30
毎日	子育て広場	キッズルーム開放

場所：パレア若狭

実施日	行事名	受付時間
6日(金)	妊婦教室	10:00
	2か月スイートマザー教室	9:45～10:00
10日(火)	離乳食教室(前期・完了期)	9:30
12日(木)	2歳児歯科健診	9:00～9:15
16日(月)	500予防接種	9:00～9:30
17日(火)	2歳児歯の教室	9:30
19日(木)	4か月児健診	13:15～13:30
	10か月児健診(離乳食教室)	13:15
20日(金)	3歳児健診	13:00～13:30

場所：三方保健センター

成人カレンダー

実施日	行事名	場所	受付時間
16日(月)	バランスボール教室(※②)	从わかさ三宅基幹支店	13:30～
17日(火)	こころの相談日	パレア若狭	13:30～15:00
23日(月)	バランスボール教室(※②)	从わかさ三宅基幹支店	13:30～

※①…子育てサークル「げんキッズ」の活動日です。

問い合わせは健康課(パレア若狭)へ (TEL 0770-62-2503)

※②…バランスボールサークル「にこやか会」の活動日です。

問い合わせは健康課(パレア若狭)へ

子育て支援センター



○わかば保育園(9:00～)

10日 いきいき広場

17日 親子体操

24日 いきいき広場



○すくすく学級

(9:30～12:00)

11日 三方保健センター

18日 三方児童館



冬休み中も利用してね

三方児童館 年末年始の開館日

(開館時間 13:00～17:00)

12月 24日(土)、26日(月)、27日(火)、28日(水)

1月 4日(水)、5日(木)、6日(金)、7日(土)

●問い合わせ

福祉課(パレア若狭)(TEL 0770-62-2502)

三方児童館(TEL 0770-45-0626)



三方グラウンドで雪遊びをする園児たち(12/15)